

新型コロナウイルス感染症防止のため、大人数で集まることが難しい状況となっております。認知症の学びの機会を新たな形で提供できる様、今回よりセンター通信で情報を発信していきます。初回は、先日行われた「若年性認知症の人と家族のつどい～なのはな～」山形大学医学部附属病院 森岡大智先生をお招きしての講演についてご紹介します！

「認知症を取りまく現状と可能性」 ～森岡先生の講演より～

認知症の薬（抗認知症薬）について

神経の通りを良くする

- ドネペジル (アリセプト)
- ガランタミン (レミニール)
- リバスタッチ (イクセロン)

神経を保護する

- メマンチン

抗認知症薬は、運転免許を保持しながら飲める薬ではありません。海外では個別に評価するところもありますが日本では制度上できません。



軽症～重症まで
・元気を出す
・意欲を出す

中等症以上

ドネペジルは1日1回服用。ガランタミンは1日2回服用。リバスタッチは貼り薬になります。同じ作用の薬のため、併用することはできません。

Q.薬の効果は？

認知症を治す薬ではなく、治療認知症の進行を少しゆるやかにする薬。中断してしまうと、飲まなかった時と同じくらいに戻ってしまうこともあります。きちんと服薬できる環境を整えることも大きなことです。



米食品医薬局（FDA）承認 マデュカフマブについて

マデュカフマブは、アルツハイマー型認知症の進行を抑える治療薬として2020年6月にアメリカで特殊な形で承認された薬です。免疫抗体を使ったものであり、脳内のアミロイドを見つけ、外に出すことにより認知症の進行を抑えるという仕組みですが、日本での承認については現時点で言及はされていません。

アルツハイマー型認知症の3つの原因

- ①アミロイドがたまる・・・症状が出る20年前から
- ②タウがたまる・・・症状が出る10年前から
- ③細胞死・・・症状が出る3～4年前から加速

マデュカフマブは、治療費・適応範囲にも課題があります。治療費については、月に1回の頻度で点滴投与するものであり、その年間治療費が約610万円と高額になると言われています。また、アミロイドがたまるのは、症状が出る20年前であると言われていたことから、この薬が一般的に使用されることとなったとしても、適応となる範囲は狭いと言えます。今の段階でMCIの方がマデュカフマブを使える可能性は低いです。ただこの薬が認知症の治療薬としての大きな話題となり、認知症への関心は高まったと言えます。

Q. マデュカフマブはアルツハイマー型認知症以外には効果はあるのでしょうか？

脳血管性認知症、前頭側頭型認知症はアミロイドが関係していないため、効果はありません。

▶▶ ドクターズアドバイス ～先生への質問の中から一部をご紹介します～

Q.「当たり前前の方が当たり前でできなくなる」いらだち・悲しさ、今後どうなるのだろうという不安を持つ家族様からの声を聞くこともあります。気持ちの持ち方や現状の捉え方など何かアドバイスがあれば教えてください。

アルツハイマー型認知症について言えば、ヒントがあったとしても思い出すことができません。なんとか思い出させようとするのは、お互いにとって負担となります。記憶の引き出しにそもそも入っていない状況だからです。それを責められても辛い。家族がそんなつもりがなくても責められていると感じてしまうかもしれません。本人に指摘しすぎないのも大切です。また、家族だけで抱え込みすぎないこと。制度の利用などの支援サービスにつなげていくことやピア・サポート（仲間同士の支え合い）も言葉が入っていきやすいかもしれません。

～森岡先生、たくさんの学びをありがとうございました～

▶▶ 若年性認知症の人と家族のつどい～なのはな～のご紹介

認知症は、高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合、「若年性認知症」とされます。高齢者の認知症とは違った悩みも多いことから、本人・家族がお互いに交流できる場が求められ、認知症の人と家族の会とともに平成24年に初めてのつどいが当院で開催されました。

本人にとっては楽しみを感じる時間になるように、そして家族にとっては、率直な思いを語ることができ、思いを共有できるような場となっています。

「怒ってしまい落ち込むこともある」「これからどうなるのか不安」などを語れるにも同じ状況の家族がいるからこそ。双方向のやり取りで安心感をもらったり、勇気づけられるものになっているとの声も聞かれます。また今回のように専門医の先生をお招きしての講演・座談会も年4回行っています。

～なのはなへ参加者ご希望の方へ～

なのはなは、毎月1回開催しております。
(基本は第3水曜日ですが変更になる場合もあります)



若年性認知症の方（当事者・家族）で、なのはなに参加ご希望の方いらっしゃいましたら篠田総合病院 星川までお気軽にご連絡下さい。年間予定表、案内を郵送いたします。

▶▶ 次回の専門医との学びの場について

日程：令和3年9月15日 13時30分～14時30分
場所：篠田総合病院 講堂

当院で水曜の外来を担当されている山形大学医学部附属病院 小林良太先生からお話頂きます。認知症疾患医療センターへ通院中の方の家族様も人数限定にはなりますがご参加頂くことができます。詳しくはお問い合わせ下さい。